|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2021年４～６月期） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2021年４～６月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－25.8で、前期より3.7ポイント増加し、２期ぶりに上昇した（図１）。

業種別にみると、製造業は－17.2（前期より7.8ポイント増）となり、４期連続で上昇した。一方、非製造業は－28.8（前期より2.4ポイント増）で、２期ぶりの上昇となった。

非製造業を業種別にみると、すべての業種でＤＩは上昇した（図２）。特に、卸売業の増加幅が大きかった。

経営上の問題点は、建設業を除くすべての業種において「需要の停滞」が１位であるが、その割合は小売業を除き、減少した（図３）。特に、製造業と卸売業での減少幅が大きかった。

建設業は、前期に６位であった「材料価格の上昇」の割合が急増し１位となった。製造業でも「原材料価格の上昇」が前期の４位から２位に、卸売業では「仕入単価の上昇」が３位から２位に上昇するなど、仕入単価の上昇を問題とする企業割合が、幅広い業種で高まっている。

2021年７～９月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－27.6で、今期より0.4ポイント悪化する見通しとなっている。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第164回中小企業景況調査（2021年4—6月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第164回中小企業景況調査（2021年4—6月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第164回中小企業景況調査（2021年4-6月期）